

教育振興運動における読書活動推進の取組事例
「豊かな心に根ざした『ことば』を育む」(一関市舞川地区)



[運動の特色]

- ① 「ことばを大切にすることは、コミュニケーション力を高め総合的な人間力を高める」という考え方が運動の**出発点**であり、**目指す方向性(共通の願い)**となっています。
- ② 「あいさつ」「テレビの視聴時間」「ゲームをする時間」「読書の時間」に関する調査を行い、子どもたちの**現状把握**を行いました。このことが取組の意識を高めています。
- ③ 家庭での取組の負担に配慮して、①「あいさつ運動(おはごあことば)の展開」と②「読書活動の推進」の2点にし、読書活動の取組では、発達段階毎に読書カードの活用による親子での30分間読書運動を展開するなど、**取組内容の絞り込みと(手だてを明確にした)具体化**を図りました。
 - 幼稚園…「本よんでー(day)カード」(読み聞かせ)
 - 小学校…「ノー(No)テレビデーカード」
 - 中学校…「今日は本デーカード」
- ④ 公民館が**運動の推進役や調整役**を担い、幼稚園、小学校、中学校のそれぞれのPTAが中心となって、家庭や学校で運動が進められました。
- ⑤ この運動は、1年毎の成果をふまえながら**3か年のスパン**で計画され、**3年目での定着**を目指しています。



舞川公民館 (〒021-0221 一関市舞川字中里 95-1 電話 0191-28-2111)

岩手の図書館職員
おすすめの児童書

岩手県家庭・地域教育力向上支援委員会では、本県の図書館職員が推薦する本を、「乳幼児向け」「小学校低学年向け」「小学校中学年向け」「小学校高学年向け」「中学生・高校生向け」ごとに40冊ずつカラーパンフレットを用いて紹介しています。

読書の楽しさを味わう一冊として子どもに勧める際にぜひ活用ください。

※次のホームページで閲覧・ダウンロードができます。

岩手県ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/>

「まなびネットいわて」<http://www.manabi.pref.iwate.jp/>



朝読(あさどく)

学校の朝学習等を利用して一斉に読書に取り組む活動で、民間団体である朝の読書推進協議会が提唱して全国的に広く普及したものです。同協議会では、「みんなでやる」「毎日やる」「好きな本でよい」「ただ読むだけ」を4つの原則としています。

家読(うちどく)

「朝読」の全国的な定着をふまえ、家族みんなで本を読む新しい読書スタイルとして最近新聞等で提唱されたものです。家族とともに読書する時間を設け、子どもと一緒に本を読んだり、読み聞かせを行ったり、公共図書館を家族で利用する機会をもったりするよう促します。

教育振興運動による読書の楽しさを伝える社会参加活動

九戸村地域子ども読書会では、高校生は読み聞かせの主体、高校は参加生徒の募集と指導、親は会場準備、地域は会場確保、会場準備、行政は実施計画の作成、予算確保という役割分担の下で、高校生の社会参加活動を25年以上続けています。県は、このような先進事例等の情報提供や地域に活動の機会を促すことで、子どもたち一人一人が主体的に読書活動に取り組む姿を目指します。

〈作成/岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課(〒020-8570 盛岡市内丸 10-1 ☎019-629-6176 FAX.019-629-6179)〉

「岩手県子どもの読書活動推進計画」(第2次)

いわて子ども読書プラン
2009

読書活動は、子どもたちに豊かな感性や情操、思いやりの心をはぐむ大切な営みです。このプランは、2004年(平成16年)に策定した第1次「いわて子ども読書プラン」の取組の成果と課題を踏まえ、改めて今後のあり方を示したものです。

- ◆ 子どもたちが、いつでもどこでも本に親しめるような環境づくりを進めます。
- ◆ 家庭、地域、学校及び行政のそれぞれが担う役割を示しました。
- ◆ 今後5年間の具体的な取組内容と目標(値)を掲げました。

本の扉を開けよう

あさどく うちどく
朝読・家読・みんなて読書



学 校

- ◇ 朝読書や読み聞かせ、テーマ読書など、多様な読書指導を展開します。
- ◇ 学校図書館の利用促進を図ります。

家 庭

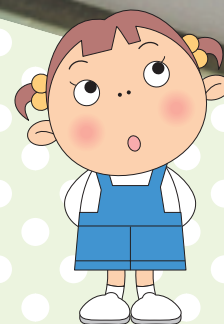
- ◇ 家族で読書に親しむ機会(家読)を勧めます。
- ◇ 教育振興運動の全ての実践区で全県共通課題として取り上げ、具体的に取り組めます。



地 域 全 体

— 読書活動推進の気運醸成へ —

- ◇ 教育振興運動の全ての実践区で全県共通課題として取り上げ、具体的に取り組めます。
- ◇ 子どもの社会参加活動も含めた読書ボランティア活動の展開を支援します。
- ◇ 公立図書館や行政による施設・設備・蔵書等の整備充実を進めます。



岩手県教育委員会

第2次計画「いわて子ども読書プラン2009」の取組

本の扉を開けよう

県の取組の方向性

学校

- 司書教諭等の研修機会の充実
- 読書推進に関する各種情報提供
- 学校と読書ボランティア及び公共図書館をつなぐネットワーク体制整備

家庭

- 家庭教育や子育て支援のための講座や研修会を通じた周知・啓発
- 教育振興運動を通じた具体的な取組の普及・奨励

地域

- 民間団体等の活動を支援するネットワーク体制の整備
- 読書ボランティア等のための研修機会の提供

- ▽ 関係機関の推進体制整備
- ▽ 関係機関との連携・協力
- ▽ 関係機関への周知・啓発
- ▽ 県立図書館等の整備・充実

市町村に期待する取組

学校

- 小・中学校の司書教諭等の指導力の向上に関する取組
- 市町村立図書館等による学校への継続的支援

家庭

- 家庭教育学級等を活用した読書活動の重要性に関する学習機会の提供
- 「ブックスタート」事業等の実施
- 市町村立図書館等による魅力ある「児童サービス」の提供

地域

- 市町村立図書館等による「児童サービス」の充実
- 教育振興運動による読書活動推進に関する奨励と支援
- 読書ボランティア団体等への充実した支援

- ▽ 関係機関の推進体制整備
- ▽ 関係機関との連携・協力
- ▽ 関係機関への周知・啓発
- ▽ 市町村立図書館等の整備・充実

みんなで読書

(あさどく) 朝読

(うちどく) 家読

豊かな本との出会いにより、

- 言葉を学び感性を磨く
- 表現力を高める
- 想像力を豊かなものにする

◆ 朝読書のように、学校において児童生徒が読書の楽しさを味わうことを「朝読(あさどく)」という言葉で表しました。

- 各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等を通じ、読み聞かせやブックトーク、テーマ読書、また学校図書館を有効に活用しながらの調べ学習など、多様な読書活動が展開されます。
- 読書に慣れ親しむことで、心が磨かれ、感じ方や考え方に一層の深まりが期待されます。

◆ 家族みんなで読書活動に取り組むようすを「家読(うちどく)」という言葉で表しました。

- 読み聞かせをしたり、家族で図書館を利用してみたりするなど、読書に取り組むことを通じて、家族のコミュニケーションが深まることも期待されます。
- 家庭学習の一つとして日常的に取り組むことによって、学習態度も身につくようになります。

◆ 教育振興運動による読書推進の取組や読書ボランティアによる働きかけ、公立図書館等による取組など、子どもたちが本に親しむためのさまざまな活動により、社会的気運が醸成されていくことを「みんなで読書」という言葉で表しました。

- 子どもたち自身が、読書の楽しさを他に伝えるような社会参加活動に取り組むことも、相互の読書への関心・意欲を高めます。



※計画本編は次のホームページにて閲覧・ダウンロードができます。
 岩手県ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/>
 「教育・文化・協働」生涯学習または「教育委員会」生涯学習文化課>お知らせ
 「まなびネットいわて」 <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>
 「推進センター発刊物等」教育振興運動関係

第1次計画(2004~2008)では、このように取り組みました。



■こんな成果がありました	■こんな課題があります	■意識調査からはこんな傾向がみられます
<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書冊数は、小・中・高とも増加傾向にあります。 【1ヶ月の平均読書冊数】H15⇒H19 (小)8.9冊⇒9.8冊 (中)2.4冊⇒2.7冊 (高)1.3冊⇒1.6冊 ○ 全校読書に取り組む学校も増えています。(高校は微減) 【全校一斉読書活動】H15⇒H20 (小)92%⇒97% (中)90%⇒94% (高)60%⇒58% ○ 読書ボランティア活用している学校は、小学校を中心に増えています。 【ボランティアを活用している学校】H15⇒H19 (小)14%⇒67% (中)6%⇒14% (高)0%⇒4% 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年が上がるにつれ、読書する子どもとしない子どもの両極化の傾向が見られます。 【1ヶ月のうちに1冊も本を読まない児童生徒】(H20) (小)1%(中)17%(高)41% ● 学校以外の子どもの読書時間は十分とはいえない状況です。 【学校以外での読書はしない児童生徒】(H20) (小)5)27%(小)6)30%(中)1)41%(中)2)43% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書好きの子どもが増えてきています。 ○ 「豊かな心や確かな学力が身につくから読書が好き」という子どもが多くなっています。 ● 「めんどうだから」「いい本がないから」という理由から読書をさける子どもがいます。 ● 学年が上がるにつれ「読書は人それぞれで、したい人がすればいい」という考え方になる傾向があります。